

国語科



学習のめあて

「ことば」は何のためにあるのでしょうか。人の話を聞いて、「そうだなあ。」とか「ほんとにそうだろうか。」など、さまざまな考えや思いが心に浮かびます。考えたことや思ったことが出てくれば、誰かに伝えたいと思うこともあるでしょう。「ことば」とは、自分の心に浮かんだ考えや思いをはっきりさせたり、人の考えを取り入れながら自分の考えを深めたり、自分の考えや思いを伝え合ったりするためにあります。そして、他の人とよりよい関係を結ぶために、「ことば」があるのです。国語の学習は、そのような「ことば」を正しく豊かに使うための学習です。

- 読むこと** 話や文章の内容を正確に読み取り、理解する力を身につけ、進んで読書に親しみます。
- 書くこと** 経験したことや読み取った事柄を、文字を整えて速く書く力を身につけ、進んで文章を正確に書きます。
- 聞くこと** 先生や友達の話や話を正確に聞き取るとともに、正しく理解し、自分の考えと照らし合わせ、ものの見方や考え方を広くしていきます。
- 話すこと** 自分の伝えたい事柄を正しく話すために、目的や場に応じて適切に表現し、生活に役立てます。



「読む・書く・聞く・話す」力をバランスよく身につけられるよう、しっかり学習しましょう。

授業の心構え

- **中学生になると、国語で覚える知識もたくさん増えてきます。粘り強く、最後まであきらめずに授業を受けましょう。「学習体力」をつけていくのも、中学生の役目です。**
- 1. 授業の前に、教科書を出してしっかり読んでおきます。読んでおくと、授業に入ったとき漢字の読みの確認もでき、何を学習しているのかよくわかり、授業に集中できます。
- 2. 教科書を読むときは、文字を追うのではなく、文章の構成・内容を考えながら、じっくり読みます。
- 3. 先生や友達の話や話を聞くときは、発表者の方に体と顔を向け、しっかり聞きましよう。
- 4. 発表するときは、大きな声ではっきり話しましょう。
- 5. 授業中ノートをとるときは、先生の話をしっかり聞いてから書くことが大切です。



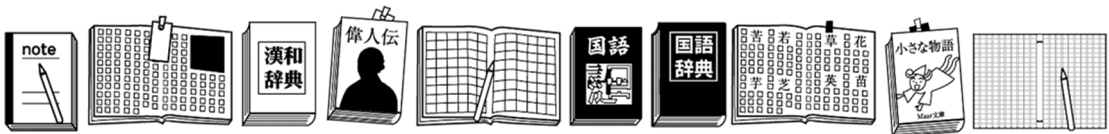
- ノートは縦書きにし、ていねいに書きます。
- 自分の考えが違っていたときは、消さずに赤で直しましょう。
- プリントはそのつどノートに貼ると、見直したとき、わかりやすくなります。
- 黒板に書いたこと以外でも必要だと思うことはメモし、大切なところは色をつけ、わかりやすくまとめましょう。

6. 辞書を積極的に使い、言葉をふやしていきましょう。
7. 漢字の練習は、毎日少しずつ学習することが大切です。毎時間チャイム学習で漢字練習をします。新出漢字を中心に 覚えた漢字はどんどん使うと早く身につきます。
8. 語句の意味調べは正確に行い、普段の生活の中で意識して使うと言葉がふえます。

わからなかったことがわかる喜び、友達と意見交換しながら自分の考えを深めていく楽しさを授業の中で味わえるように、一時間一時間の授業をクラス全員で大切にしていきましょう。そうすれば、知らず知らずのうちに国語の力は身につくはずですよ。

家庭学習でできること

- ◎ 漢字の学習は授業の中だけでは充分ではありません。毎日の家庭学習で一日10分程度でよいので継続して練習し、定着させましょう。
- ◎ 学校で学習したことをその日のうちに見直し、本文を何回も音読し、漢字や語句の力をつけていきましょう。
- ◎ 古文や漢文や詩(韻文)は、声に出して読み、暗誦しましょう。
- ◎ 本をたくさん読んでいる人のなかには、文章を読むのが速く、読み取る力がついている人が多くいます。本を読むことによって、自分の知らなかったことを知ることができ、また、ものの見方が広がり、さらに読む力や漢字の力がつきます。読書も毎日少しずつでいいので、続けていきましょう。
- ◎ 新聞を読むことも国語の学習に役立ちます。1年生ではまだ読めない漢字がたくさんあると思いますが、中学校を卒業するまでにはすべての漢字が読めるようになってはいるはずですよ。漢字の力がついているかを知るためにもぜひ読んでほしいものです。
- ◎ 授業でわかったことや考えたことなどを、自分の言葉で復習用ノート(家庭学習ノート)にまとめてみましょう。
- ◎ 音読や意味調べなど、できる範囲で予習をしましょう。



国語科 評価について

観点別評価	観点の内容、目標	評価の基準(☆)と方法(○)
知識・技能	<p>社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。</p>	<p>☆言葉の特徴や使い方、情報の使い方、我が国の言語文化等についての知識や技能を習得することができている。 ☆既習の知識や技能を関連づけて理解し、使うことができている。 ○単元ごとのテスト(漢字や文法など)や定期テスト ○ノートやワークシートの記述内容 ○書写の授業で書いたもの 例) 事柄や行為、心情を表す語句を理解し、その量を増やすことができる。 例) 語句の辞書的な意味と、文脈上の意味との関係に注意してスピーチの中で使うことができる。</p>
思考・判断・表現	<p>「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>	<p>☆人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりすることができている。 ☆言語を手がかりとし、論理的に思考したり、豊かに想像したりすることができている。 ○単元ごとのテストや定期テスト ○グループごとの話し合い・スピーチ・発表の内容 ○作文 ○単元ごとに作成する作品 例) 目的や場面に応じて題材を設定し、異なる立場や考え方を想定して文章を書くことができる。 例) 論理の展開などに注意して発表を聞き、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。</p>	<p>☆見通しをもって、言葉がもつ価値を認識しようとする、言語感覚を豊かにすること、言葉を適切に使うことに、粘り強く取り組もうとしている。 ○毎時間のふりかえりカード ○ノートやワークシートの記述内容の変容 ○一年間、定期テストごとなどに目標を設定し、それにどれだけ近づけたか定期的に自己評価をする 例) 古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。 例) 積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習の課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。</p>

社会科



学習のめあて

「生きるための知恵を身につける」

社会科を学ぶ目的は、社会科を学ぶことによって広い視野に立ち、社会に対する関心を高めるということにあります。そして、そこから物事を多面的・多角的に考え、生きていく上で直面する問題を対処できる資質を養い、激しく移り変わる国際社会に立派に生きていく人物になってもらいたいです。世の中について専門的に勉強できることはとても楽しいことです。あせらずじっくり学習を一緒に進めていきましょう。

授業の心構え

社会科では3年間を通じて、『地理』『歴史』『公民』の3分野を学んでいきます。

【地理】

学習の基本となる資料は『地図』です。地図から『地域の特色』を読み取りましょう。

【歴史】

学習の基本となる資料は『年表』です。年表から『時代の特色』を読み取りましょう。

【公民】

学習の基本となる資料は『現代の出来事』すなわち『ニュース』です。ニュースと教科書に登場する様々な資料を読み取り、現代の出来事を理解しましょう。

重要語句は様残な特色を理解するためのキーワードです。読んで、書いて、聞いて、考えて、内容を深く理解しましょう。

※社会科は勉強をしたら勉強をした分だけ、自分の知識や考え方が財産となる教科です。粘り強く、最後まであきらめずに授業を受けましょう。

授業の準備物

①教科書 ②地図帳 ③ノート ④のり ⑤ワーク (⑥ファイル) (⑦資料集)

※教科書は学年をまたいで使用することになるので、なくさないようにしましょう。

1年間の流れ

※目安

1年	地理 → 歴史 → 地理 → 歴史
2年	歴史 → 地理 → 歴史
3年	歴史 → 公民



【1年生での学習範囲】

地理 … 世界の姿 ～ 地域調査の手法

歴史 … 人類の出現と文明のおこり ～ 天下統一への歩み

【2年生での学習範囲】

地理 … 日本の地域的特色と地域区分 ～ 地域の在り方

歴史 … 幕藩体制の確立と鎖国 ～ 明治維新と立憲国家への歩み

【3年生での学習範囲】

歴史 … 激動する東アジアと日清・日露戦争 ～ 冷戦終結とこれからの日本

公民 … 私たちが生きる現代社会の特色 ～ 国際社会の課題と私たちの取り組み

評価方法

*評価別観点と評価方法

評価別観点	観点の内容	評価の方法(どのようなもので評価するか)
知識 技能	社会科に関する様々な知識や、資料に親しみ、活用する能力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ○各分野、各単元の学習内容を理解し、知識や技能を身につけ、定期テストでどれだけ正しく答えられたか。 ○学習カードで、各分野、各単元の学習内容を整理し、知識や技能を身につけられたか。 ○学習した内容について、より深く学ぼうとすることができたか。 <p>【定期テスト】【学習カード】【小テスト】 【ワーク】</p>
思考 判断 表現	社会科に関する出来事に対して、自分の考えを持ち、適切に表現している	<ul style="list-style-type: none"> ○各分野、各単元での既習の知識をもとに、定期テストにおける社会的な思考・判断についての問題に正しく答えられたか。 ○学習カードで、各分野、各単元の学習課題について、自分の考察を書くことができたか。 ○学習の過程で、習得した知識や自分の考えを書いたり発表したりすることができたか。 <p>【定期テスト】【学習カード】【ノート】 【ワークシート】【単元のまとめレポート】</p>

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>社会科に関する知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしている。</p>	<p>○学習カードで、各分野、各単元の学習について、自分の考えを踏まえてまとめるなど、工夫することができたか。</p> <p>○学習の過程で、習得した知識や自分の考えを書いたり発表したりしながら、より深く学ぼうとすることができたか。</p> <p>○学習した内容について、より深く学ぼうとすることができたか。</p> <p>○単元の学習課題について、既習事項や資料を活用しながら考察し、適切にまとめることができたか。</p> <p>【学習カード】【小テスト】【ノート】 【ワークシート】【単元のまとめレポート】</p>
----------------------	--	---

数学科

数学では、①ものごとをすじ道立てて考えること
②正確に、しかも手際よく処理すること
③すでに学んだことをもとにして、新しい性質などを発見すること
が、とても大切です。自分から進んで知りたい、学びたいという気持ちを大切にしながら、学んでいきましょう。

①表現する力を身につけよう

○「話す」ときのポイント

自分の考えを整理して、具体的にわかりやすく伝えよう。

大きな声ではっきりと話そう。伝えたい人の方を見て話そう。

○「聞く」ときのポイント

自分の考えと比べながら聞こう。

疑問に思ったことがあれば、説明や意見を聞いた後に質問しよう。

②チャイム学習に取り組もう

3分前着席します。着席後は各自で静かにチャイム学習を行います。チャイム学習の内容については、教科担任が授業で説明します。

③ノートを上手に取ろう

黒板に書かれたことをただうつすだけではなく、先生の説明や他の人の発言で大切だと思ったこと、自分で考えたことなどを書き加えておこう。これらのことをノートにまとめると、知識や考えが整理され、理解が深まります。

(1) 分数は2行使って書く。

(2) 答えだけでなく、式や考え方も書く。

(3) 答えが間違っていたとき

間違えても途中までの計算や考え方は正しいかもしれません。自分の誤答は残し、間違えた箇所に赤で二重線＝を引き、赤で訂正しよう。

※自分がミスしやすい部分を教えてくれるノートになります！

(4) 色を上手に使おう。

「重要なことから」や「見方や考え方」の部分に色を使うとよいです。

⑤こまめに復習しよう！！

復習で大切なことは、「わかっていること」「わかっていないこと」をはっきりさせることです。そのためには、授業で解いた問題やそれに似たような問題をもう一度解き直してみるとよいでしょう。わかっていないところを理解し、できるように繰り返し解くことで効率よく学習できるでしょう。

○授業でならった範囲のワークを解く。(直接書き込んでも良いですが、ワーク用のノートを用意すると2周、3周と繰り返し解けるのでおすすめです。)

○家庭学習ノートを利用する。

「わからない」「わかったつもり」から「わかる」「できる」に授業で解いた問題をもう一度解き直しましょう。また、重要事項をまとめましょう。授業中にできた問題も家で解き直すとはできないこともあります。確実に知識を定着させるためにも解き直しはたいせつです。答えだけでなく、問題、式や考え方を一緒にまとめることがポイントです。上手にまとめることで、テスト前に見直すための参考書になります。

○テストに向けて

今までに扱った問題を完璧にしよう。授業で扱った問題、教科書やワークの問題を繰り返し解いて、基礎を定着させることが応用問題を解く力にもつながります。

○学校を休んだとき

友達のノートを借りて自分のノートにうつし、学習しよう。

⑥毎回の持ち物

教科書、ノート、のり、ワーク、チャイム学習用ファイル
(図形分野ではコンパス、三角定規も必要です。)

⑦評価について

観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストや小テスト ○授業中の発言やつぶやき、机間指導等を通じて捉えた学習への取り組みの様子 など
思考・判断・表現	<p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テスト ○授業中の発言やつぶやき、机間指導等を通じて捉えた学習への取り組みの様子 など
主体的に学習に取り組む態度	<p>数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テスト ○ワークや宿題への取り組み ○プリント・振り返りシート・ノート

	学習に生かそうとした り、問題解決の過程を振 り返って評価・改善しよ うとしたりしている。	への記述 ○授業中の発言やつぶやき、机間指 導等を通じて捉えた学習への取り 組みの様子 など
--	--	---

理科



理科の授業では…？

理科を勉強するということは、身の回りの自然について知ることであるとともに、私たちの生活をより豊かにすることにつながります。理科では、自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に探求する能力の基礎と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことを目標とします。

授業の受け方

- (1) 休み時間の間に学習用具を準備し、忘れ物がないようにしましょう。用具がないと学習もスムーズにできません。
- (2) チャイムが鳴る3分前には着席し、3分前学習が同時に始められるようにしましょう。
- (3) 教科書などを先生や他の生徒が読んでいるときは、自分も黙読しよう。
- (4) 板書は内容を確認しながら丁寧にわかりやすくまとめよう。復習の時に助かります。
- (5) 観察・実験は意欲的に取り組もう。知識をより確かにし、理解を深めます。
- (6) 気づいたことや大切なことは、ノートにメモするようにしよう。

家庭学習の仕方 ～「予習」よりも「復習」に力を入れよう～

- (1) 授業で習ったことは、その日のうちにノートと教科書に目を通し、理解できているかどうかチェックしよう。
- (2) 習ったところのワークの問題を解き、理解できているか確認しよう。
- (3) 「塵も積もれば山となる」1日たった15分でも、毎日続けることが大切。自分の負担にならない長さで、毎日続けられるように工夫しよう。

テスト勉強のポイント！

- (1) たくさん教科書があります。計画的に勉強しよう。
- (2) まず、自分がどのくらい理解しているかを考えよう。
 - だいたい分かっていると思う人 → 問題を中心に解いていく。
 - あまり分かっていないと思う人 → まず、教科書やノートを読むことから始める。
- (3) 観察・実験を中心とした問題が出題されます。教科書にある重要な観察・実験については、内容や考えをまとめるだけでなく、目的・準備(器具名など)・実験方法なども整理しておこう。
- (4) 重要語句は、漢字で書けるようにしましょう。

～授業、成績について～

- 1 持ち物
 - ・教科書
 - ・ノート
 - ・ワーク
 - ・理科便覧
 - 2 授業の進め方
 - 授業(実験前の予習・レポート作成)
 - 実験
 - まとめ(レポート完成・提出)
- } 繰り返し

3 成績について

評価項目	評価の観点と趣旨	評価の基準(☆)と方法(○)
知識・技能	自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	☆「知識」について、例えば「見いだして理解する」と内容に示された項目は、生徒が実験結果から自分で見いだして理解する場面を設定する必要があります。 ☆「技能」は、観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を評価します。 ○定期テストや小テスト等
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	☆自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす活動 ☆解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動 ☆探究の過程を振り返る活動 ○定期テストや小テスト等 ○レポート
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	☆粘り強い取組を行おうとする側面「進んで関わり、(粘り強く)」 ☆自らの学習を調整しようとする側面「他者と関わりながら」 ☆理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする側面「学んだことを学習や生活に生かそうとしている。」 ○ノート等の記述内容

4 提出物

- ・ワーク(テストごとに集める)
- ・授業用ノート
- ・レポート

5 持ち帰りについて

- ・基本的には学校に置いておいてよい

～理科室の使い方～

- (1)実験器具等危険なものがいっぱいあります。悪ふざけから大きなけがや事故が起きる可能性があります。
- (2)机の落書きは厳禁です。皆さんが気持ちよく使えるようにしましょう。
- (3)理科室の座席について教科担任の指示に従ってください。

～1年間の学習順序～

1年間以下の順序で学習を進めていきます。よろしくお願いいたします！

1年生	生命→エネルギー→地球→物質
2年生	物質→地球→生命→エネルギー
3年生	エネルギー→生命→物質→地球

令和8年度 音楽科 学習案内

1、目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(中学校学習指導要領より)

2、学習内容

領域		第1学年	第2学年	第3学年
表現	歌唱	「校歌」「赤とんぼ」等	「夏の思い出」等	「花」、卒業の歌等
		合唱祭に向けてクラス曲、学年合唱曲		
	器楽	箏「さくらさくら」、ボディーパーカッション、カップス等		
	創作	PC や箏を用いた曲づくり、リズムアンサンブルづくり等		
鑑賞		「春」「魔王」等	「フーガト短調」 「交響曲第5番」等	「ボレロ」「アランフェス協奏曲」等
		日本伝統音楽「歌舞伎」「能」、世界の音楽 等		

○表現 歌唱…歌を歌い、イメージや思い、曲の風景などを表現すること。

器楽…楽器などを演奏し、イメージや思い、曲の風景などを表現すること。

創作…音楽をつくり、イメージや思い、曲の風景などを表現すること。

○鑑賞…音楽を聴いて、どのような仕組みから成るか理解し、自分なりに感じ取って伝えること。

4、評価方法

評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした表現活動をするために必要な技能を身につけている。 	実技テスト 定期試験 ワークシート チャイム学習等
思考、判断、表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の諸要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように音楽を表現するかについて、思いや意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	実技テスト ワークシート 日常の取り組み等
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しみ、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 	振り返りシート 定期試験 実技テスト 日常の取り組みなど

美術科

美術科では、描くこと・作ることを通して想像したことを形にする創造力をつけていきます。また、作品を鑑賞することを通して、作品から良さや美しさを感じ取る力や伝える力を育みます。そして、生活や社会の中で美術や美術文化と豊かに関わっていく基礎的な力を身につけていくことを目標としています。普段の生活の中から「美しいもの・こと」って何だろう？と考えたり面白いアイデアを考えたりする習慣をつけ、授業で作品として表現していきましょう。

○授業の事前準備

美術の学習は授業が始まってからがスタートではありません。美術の授業に臨む気持ちと、授業に必要な道具の事前準備がとても大切です。忘れ物がないよう、授業の準備を行いましょよう。

- ・美術バッグに常に入れておく物
教科書、アクリルガッシュセット（絵の具セット）、新聞紙、スケッチブック
ぞうきん（絵の具用）、のり、鉛筆（HB・2B）（美術バックまたは筆箱に入れておく）
- ・その他、課題に応じて用意する物は随時連絡します。

○チャイム学習について

①美術室にはなるべく早めに来てその日の授業の準備をしましょう。

②チャイム学習では、教科書等から選ぶ「鑑賞～今日の1枚～」を鑑賞して、美しいと思った

ところ、作品から感じたこと、作品の良さをプリントに記入しましょう。

③絵の具の作業や作品の準備があるときは、鑑賞は行いません。授業開始のチャイムが鳴る前

に準備を終えて、席に座りましょう。

○準備～制作～片付け

①授業準備・号令・忘れ物チェック

- ・汚れてしまう可能性があるため、服装はジャージが基本です。
- ・授業開始のチャイムの前から「チャイム学習」または授業の準備に取り組みましよう。
- ・チャイムと号令の後、教科リーダーが出席チェック&忘れ物チェックをします。
- ・号令後すぐに制作が始められるように、準備をしておきましょう。

Ex) 作品の配布、鉛筆を削る、絵の具・筆洗・ぞうきんの準備等

②作品制作は集中して無言で進めましょう。

- ・制作の手順の説明をよく聞いて、制作を進めましょう。
- ・わからないことや困ったことがあれば、手を挙げて質問して下さい。

③片付け

- ・後かたづけは素早く、綺麗に、来た時よりも美しく、10分以内で行いましょう。
- ・消しゴムのかすは集めてゴミ箱へ捨てましょう。
- ・机に絵の具やのり等がついてしまい汚れてしまった場合は、ぞうきんで水拭きをして、次に使う人が気持ちよく使えるようにしておきましょう。

④作品の提出について

- ・作品はそれぞれの作品ごとに決められた場所に提出します。
- ・提出物の締め切りは必ず守って下さい。提出遅れは減点対象になります。計画的に制作を進めましょう。

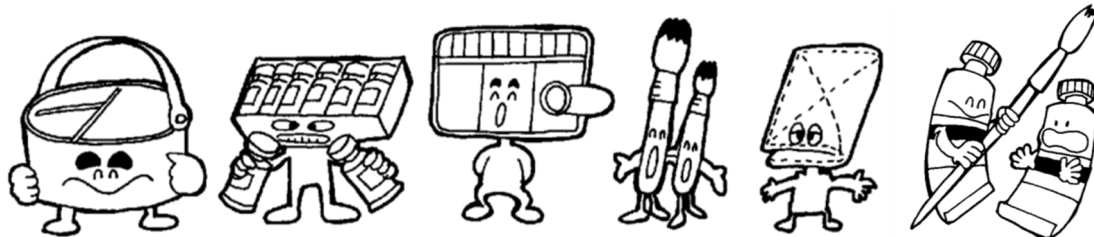
○評価について

- ◎知識・技能…造形的な視点について理解し、意図に応じて創造的に表す力
- ◎思考・判断・表現…発想や構想、よさや美しさを感じ取ったり考えたりする力
- ◎主体的に学習に取り組む態度…生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる力

指導内容と目標	観点別学習状況の評価について
知識及び技能	知識・技能
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	使用する材料や用具の性質や効果を理解し、作品の構想に合わせて適切に使用し作品制作をしたり、感じ取ったりすることができる。造形的な視点で課題を理解し、表現方法を工夫することができる。 ○アイデアスケッチやワークシート（知識・技能） ○材料や用具等の使い方 ○作品（表現の工夫・美しさ等）
思考力、判断力、表現力等	思考力・判断力・表現力
造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	作品を制作するための材料や資料を集め、アイデアスケッチやワークシート等に表現することを通して、自ら主題を生み出し、造形活動に生かすことができる。 ○アイデアスケッチやワークシート（アイデア・発想） ○作品（キャプション等を含む） ○鑑賞カードへの記述内容
学びに向かう力・人間性等	主体的に取り組む態度
美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を	創造的な活動や鑑賞活動を通して、美術の創造活動の喜びや楽しさを感じることができる。より良い作品にしようとする探求心をもって作品を粘り強く制作することができる。

養い、豊かな情操を培う。

- 授業態度
- スケッチブックの取り組み
- チャイム学習の取り組み
- 授業に臨む姿勢（準備、片付け、発言、資料・情報収集等）



二宮中学校 保健体育の授業の約束

〈服装・身だしなみ〉

- 1 服装は体操服、ハーフパンツ、運動靴（上履き）とする。
タイツを履いて授業を受けないこと。特別な事情がある場合は必ず相談すること。
- 2 原則として、11月～5月まではジャージを着用しても良い。
（気候や種目によってはこれ以外の場合もある）
また、手袋の着用は認めるが、ネックウォーマーの着用は認めない。
- 3 持ち物全てに名前を書く。（体操服・ハーフパンツ・ジャージ上下・上履き・運動靴）
- 4 体操服は、ハーフパンツにきちんと入れる。アンダーシャツは着て行わない。
- 5 上履き・運動靴の紐はきちんと結ぶ。
- 6 見学者はジャージを着用する。（制服のままで参加しない）
- 7 事故防止のため、爪は短く切っておく。
- 8 長髪（肩に掛かる髪）の生徒は、運動に支障のないようにヘアゴムで結ぶ。
ヘアゴムの色は黒、紺、茶とする。ヘアゴムは腕につけない。
- 9 装飾品はつけない。（ミサンガ、アクセサリなど）
- 10 授業中、ポケットの中に不要物を入れない。（くしや家のカギなど）
基本的に体育に不要な物は、持ってこない。



〈授業〉

- 1 遅刻をしない。（チャイムと同時に開始する）
- 2 忘れ物はしない。〔ノート、教科書（保健または実技）、筆記用具〕
- 3 準備運動をしっかりと行う（怪我防止、からだを温めるため）
- 4 見学者は、体育科が配付する「見学者カード」に「日にち」「見学理由」を必ず保護者に書いてもらい、印をもらう。朝のうちに担任に見せ、サインをもらってから、授業の始めに教科担任に提出する。
- 5 授業中に気分が悪くなったり怪我をしまったりした場合は、必ず先生に言う。

【体育学習の学び方Ⅰ ～学びの扉～】

- ① 体育の約束とルールを守り、みんなでできる授業にしよう！
- ② 自分の記録や能力に挑戦し、「できた！」を増やしていこう！
- ③ 自己やチームに合った練習方法を考え工夫していこう！



【体育学習の学び方Ⅱ ～上達への道～】

- ① 仲間の練習を「見る」
- ② 仲間のアドバイスを「聴く」
- ③ 仲間にアドバイスの「言葉をかける」
- ④ 課題とそれを解決できる場を「見つける」

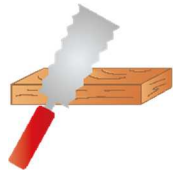
保健体育科 観点ごとの評価



※運動種目・単元の特性により変わる部分があります。各単元のオリエンテーションで、その都度説明します。

観点別評価	観点の内容	評価方法
知識及び技能	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など <p>スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の基礎的な知識</p> <p>各種の運動が有する特性や魅力に 応じた基本的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・筆記テスト ・技能テスト ・学習カード など
思考力、判断力、表現力	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫で きる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべ きポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝えたり表現したりする力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・学習カード など
学びに向かう力、人間性等	<p>生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組む態度 ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を 大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する ・スポーツとの多様な関わり方を場面に 応じて選択し、実践することができる 態度など 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・学習カード など

技術科



学習のめあて

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身につける。



授業の心構え

1. メリハリを大切に！

話を聞くところ、活動するところ、作業をするところ、それぞれに合った態度で授業に臨みましょう。

2. 安全に注意しよう！

さまざまな工具や機械を扱います。使い方を守り、ケガや事故がないように気を付けましょう。

3. 忘れ物に気を付けよう！

作業は、安全面を考慮してジャージ上下着用です。忘れた場合は作業ができないこともあります。

4. 提出物は、期限を守り、忘れずに出そう！

提出物を出さないと皆さんの学習を評価できません。忘れずに。



3つの観点について

観点	つきたい力	評価項目
知識・技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	○定期テスト ○作品・実習
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力が身につけている。	○定期テスト ○授業プリント ○レポート等の提出物

主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	○授業プリント ○レポート等の提出物
---------------	--	-----------------------

※思考・判断・表現では自分で考えて書いたり、まとめたりしたもの
主体的に学習に取り組む態度では製作のレポート等を評価します

※授業プリントを含めた各種提出物が出ないと、評価することができません。提出物についての質問や、欠席等でわからないことは、自分で先生に聞きに行きましょう。



家庭科



学習のめあて

衣食住の生活・消費生活・家族生活・環境問題の分野で実践的・体験的な活動を通して自分でできることを増やしたり、様々な視点から生活の課題を見つけ、よりよい生活にするために生活を工夫し改善する力を身につけよう！

授業の心構え



1 静と動の切り替えをし、けじめをつけましょう。

実践的・体験的な学習を通しての学習なので、作業や活動する場面が出てきます。話を聞くところ、活動するところを区別し、けじめをつけましょう。特に作品製作では、集中して取り組まないと、よい作品はできません。

2 話し合い活動では、自分の意見をもって仲間に伝えましょう。

3 安全に注意して取り組みましょう。

作業では、いろいろな用具や器具を使います。怪我や事故のないようにしましょう。



4 服装や用具を忘れないように準備しましょう。

作業に見合う服装（調理ならエプロンや三角巾等）や作業で使う用具（被服なら裁縫道具等）は忘れないように準備しましょう。



5 提出物は、期限を守って提出しましょう。

家庭学習の内容



- * 家事に参加したり、自分のことは自分でやるようにしましょう。
- * よりよい生活を過ごすために、問題点を考え、改善策を見だし、実践してみましよう。
- * 日々、新しい情報が流れてきます。興味をもってニュースや新聞等を見ましよう。



技術・家庭科（家庭分野）の目標と評価について

目標 生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身につける。



3つの観点について

	つきたい力	評価資料
知識・技能 （基本的な知識と技能が身についている。）	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識の理解を図るとともにそれらに係わる技能を身につけている。	○定期テスト ○小テスト（指定したもの） ○プリント・ノートの記載内容 ○発表内容 ○作品・実習・実験 ○レポートや新聞内容
思考 判断 表現 （知識・技能を活かして思考・判断・表現を工夫している）	家族・家庭や地域のおける生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力が身につけている。	○プリント・ノートの記載事項 ○定期テスト ○小テスト（指定した物） ○生活の課題と実践 ○作品・実習・実験 ○レポートや新聞 ○発表内容
主体的に学習に取り組む態度 （自分のことと考え、粘り強く取り組むことができている）	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、周囲の人たちと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度が身につけている。粘り強く、取り組む姿勢	○ノート・プリント ○生活の課題と実践 ○学習記録表の記入内容 ○授業中の取り組み状況 ○発表内容 ○作業に見合う準備状況（服装や用具）

Let's Enjoy English! (英語科授業ガイダンス)

学習のめあて

中学校の外国語（英語）を学習するうえでの目標は、「英語を使うときの考え方を大切にしながら、簡単な情報や考えを理解したり、自分の気持ちを伝えたりできる力を伸ばす」ことです。そのために、授業では、Listening（聞くこと）、Speaking（話すこと）、Reading（読むこと）、Writing（書くこと）を行います。特に、「聞くこと」と「話すこと」が英語を学習するうえで基本になります。したがって、恥ずかしがったり、失敗を恐れたりせず、相手に伝わるようにしっかり声を発して学習することが上達のカギとなります。ペアワークやグループワークの機会も多いので、クラスメイトと楽しく学んでいきましょう。

学習の心構え

学年が上がるにつれて、英語で覚える表現が増えます。粘り強く、最後まであきらめずに授業を受けましょう。その分、使える表現も増えていきますよ！！

【3分前学習】

二宮中学校では、3分前学習を心掛けています。授業開始の3分前には着席をして、授業の準備をしましょう。また、教科担任の先生から課題を提示されて、それを進める場合もあります。

【持ち物】

- 1 教科書…音読を繰り返すことで、基本的な表現が身に付きやすくなります。
 - 2 ノート…使い方は教科担任の先生の説明を聞きましょう。
 - 3 ワーク…付属ノートだけでなく、別にノートを準備するのも良いですね。
 - 4 ファイル（紫）…ワークシートを整理整頓して定期試験前にも振り返りましょう。
- 上記の4点セットは英語の授業での基本セットです。必ず、授業前に机の上に用意します。

授業用ノートの使い方の例

授業用ノートは自分でまとめた最高の参考書でなければなりません。授業の中で学んだことをノートにまとめる時間や振り返る時間をぜひ確保してください。家に帰ってからノートを開くと、授業の場面がふっとよみがえってくるような、そんなノートづくりを心がけたいものですね。

Unit のタイトル 教科書本文	新出 単語・ 熟語	新出 単語・ 熟語の 意味	教科書本文の 日本語訳 授業で気づいた ことなど
板書 授業のまとめ			自由英作文

ワークの使い方の例

ワークは書くことの反復学習ができる最適の学習教材です。繰り返すことで基本的な表現が身に付き、その後自分の自由な表現へつながります。付属ノートも注文しているので、2回は繰り返して解くことができます。自分のノートを用意して何度も解くことでより力がつくでしょう。

1回目に間違えたものには問題番号に✓、2回目も間違えたら○を付け、テスト前には、それらのマークがついたものを重点的に解き直すなど、工夫して活用しましょう。

Chromebook の使い方について

授業によっては、Chromebook を使い、表現などを調べることもあります。使い方によっては、自分で表現する力を伸ばすことができるでしょう。英文すべてを訳すのではなく、自分が分からない部分だけを調べるようにすると良いです。また、教科書などの英文の音読練習のために活用することもできます。やり方については、授業内で説明します。

観点別の内容と評価方法

観点	観点の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音や言葉、文の作り方を知る。 学んだことを「聞く」「読む」「話す」「書く」ことに生かして、実際に英語でやりとりできる力を伸ばす。 <p>具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 英語の音やリズムに慣れる <input checked="" type="checkbox"/> よく使う単語や表現を知る <input checked="" type="checkbox"/> 簡単な文を読んだり書いたりする <input checked="" type="checkbox"/> 自分のことを英語で話したり、相手の話を聞いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の文法や単語を理解し、書いたり話したりできているか。 ○教科書の各単元の本文内容を理解し、読めているか。 ○各単元の文法を使った英文を聞き取れているか。 <p>評価材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト 等
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使う目的・場面・状況に合わせて、身近なことや世界のことについて、簡単な情報を理解したり、自分の考えを伝えたりできる力を伸ばす。 <p>具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 相手が話している内容の要点をつかむ <input checked="" type="checkbox"/> 身近なことについて簡単な英語で話す・書く <input checked="" type="checkbox"/> 自分の気持ちや考えを伝える <input checked="" type="checkbox"/> いろいろな場面で英語を使ってやりとりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面や状況に応じて事実や意見を伝えられているか。 ○英語を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えられているか。 ○自分の事や身の回りの事などに関して、スピーチやプレゼン、英語のレポートなどで伝えられるか。 <p>評価材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・パフォーマンステスト 等

主体的に学習に取り組む態度

- 英語を使う国や地域の文化を知り、聞く人や読む人、話す人や書く人のことを考えながら、自分から英語でコミュニケーションしようとする気持ちを育てる。

具体例

- 英語を使う国や地域の文化を知る
- 相手の気持ちや考えを大切にする
- 伝え方を工夫しながら英語を使う
- 自分から英語を使ってやりとりしようとする

- 課題に対して自ら進んで取り組む姿勢や学習の振り返りはできているか。
- 学んだ事を生かして、テーマへの理解を深めようとしているか。
- 自分の学習を振り返り、改善に向けた取り組みを自ら進んで行っているか。

評価材料

- 定期テスト
- 小テストや提出物などの記述
- パフォーマンステスト 等